

未来ノート

-202Xの君へ-

セーリング

おか だ けい じゅ

岡田奎樹・外蘭潤平

フリキの小ブネ

遠回りだったが

年下にも教わる

愚直にやりきる

速さの出し方 夢中で研究

「風を見る能力、展開を先読みする能力に自分はずけている。自信はホントに中学生くらいからずっとあった」。ここまで言い切れる選手はそういない。セーリング男子470級でかじを握るスキッパーの岡田奎樹(24)は、クルーの外蘭潤平(29)と組んで東京五輪代表に内定した。

5歳から1人乗りのOPP級に乗り始めた。大分大ヨット部出身の父・正和さんが先輩に頼まれ、ジュニアクラブの指導を手伝うことになったのがきっかけだった。週末は大分市の自宅か

ら車で別府湾へ通った。「楽しかった。1カ月くらいで1人で乗れたと思う。海水浴の足がつかない版みたいな感じ」。最初は行楽感覚。平日も母の和代さんの運転で練習に通うようになり、小学2年で福岡市へ移ってから小戸の海へ。セーリングが生活の中心になっていく。のめり込み方は半端ではなかった。

「おもちゃをねだられた記憶がない。セールが欲しいとは言われたが」と正和さん。和代さんは「唯一言われたのが、100円で売っていたフリキの小さなブネ。お風呂に浮かべると、家でコース練習がしたい、ライバルがいるから2個買って」と。白い紙が欲しいと言われ、コピー用紙を渡したら、セールの形

に切っていた。宿題は学校で済ませ、放課後や週末は練習一色。正和さんは「小学4年生ごろから口出ししていない。ほっといてもやっていた」。わざと速く走らないように艇を傾け、速さの出し方を研究していたのに驚かされた。中学の3年間は世界選手権へ出場。2年のブラジル遠征では自ら2週間前から自宅で時差調整して臨んだ。3年でついに3位。世界中の子供が集まる大会で表彰台に上がった。

和代さんは、岡田が小学3年のころに言ったことを覚えている。「僕は絶対に世界で1位になるから楽しみにしててね」。夢中になったセーリングで自ら工夫を重ねて得た自信。順風満帆だった。

和代さんは、岡田が小学3年のころに言ったことを覚えている。「僕は絶対に世界で1位になるから楽しみにしててね」。夢中になったセーリングで自ら工夫を重ねて得た自信。順風満帆だった。



下 マレーシアで開催された2010年のOPP級世界選手権で3位となった岡田奎樹

上 冬の練習中、裸足をアピールして笑顔を見せる岡田

いずれも家族提供

和代さんは、岡田が小学3年のころに言ったことを覚えている。「僕は絶対に世界で1位になるから楽しみにしててね」。夢中になったセーリングで自ら工夫を重ねて得た自信。順風満帆だった。

和代さんは、岡田が小学3年のころに言ったことを覚えている。「僕は絶対に世界で1位になるから楽しみにしててね」。夢中になったセーリングで自ら工夫を重ねて得た自信。順風満帆だった。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。